

1月21日

殉教者おとめアグネス

Agnes

(304年ごろローマ)



Saint Agnes

伝説によると、ローマ皇帝ディオクレティアヌス統治の時代にキリスト者としての迫害を受けたとき、アグネスはわずか12、3歳だったと言われる。アグネスは、神にのみ仕えるという決心から、ローマの長官の息子との結婚を拒否したため恨みを買って、キリスト者であることを糾弾された。異教の神々を崇めることを拒否したことにより、酷い拷問を受け、衣服をはぎ取られる。すると、すぐさま天使たちが現れ、全身を彼女の髪の毛で覆ったという。迫害者たちは、大きなまき束に火を付け、それを彼女に向けて投げつけたところ、その火は一瞬にして消され、彼女はひとつも傷を負わなかった。その後、アグネスは斬首される。

天に召されて後しばらくして、両親が彼女の墓の前で祈っていると、アグネスは、かれらの前に白い小羊を傍らに、輝く姿で現れた。かのじょは、天において救い主と永遠に結ばれているから、涙を拭くように語ったといわれる。

聖アグネスについては、4世紀にミラノのアンブロシウスとヒエロニムス書き残している。美術においては、デューチオ、ティントレット、フラ・アンジェリコなど、多くのルネサンスの画家に愛された。小羊とともに描かれることが多く、アグネスの名前がアニユスに関連すると考えられがちである

が、実際は、ギリシア語のアグネイア(白、または純潔)に由来する。殉教者としては、片手にやしの枝葉、もう一方に剣を持って描かれ、剣が彼女の喉元を刺し貫いていることもある。たいてい、長い髪の毛を持ち、裸体にその毛が巻きついている描写もある。(M)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者おとめアグネスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン